

平成26年度 明石市地域自立支援協議会

こども部会 リポート Vol. 4 平成27年2月3日

発行元：明石市地域自立支援協議会 こども部会 事務局
 (基幹相談支援センター) TEL：078-918-5252

【 意見投稿用アドレス 】 akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています。

皆さん、こんにちは。児童発達支援センター・明石市立ゆりかご園で児童発達支援管理責任者と作業療法士をしております、山本と申します。

私が勤める「ゆりかご園」は明石市の一番北にある、通所施設です。

現在、ゆりかご園は新しい制度のもと、児童発達支援センターとなり、地域の発達支援の中核を担う施設とされています。保育所訪問などで地域の施設を回らせていただくと、ゆりかご園に来ている子ども達以外にも、発達支援が必要なお子さんが多くおられることに今さらながら気づかされます。そしてそのお子さん達を前に先生方も、介助方法や接し方で悩んでおられるようです。それらに対して施設同士の連携を深めて、私達の知識や経験を伝えていくことで、明石の子どもさん達が楽しく暮らせるようにしていきたいと考えています。これからもよろしくお願いします。



山本 康典 委員

★ 「第3回 児童通所サービス等事業所連絡会」活動報告 ★
 平成27年1月20日(火)開催



児童デイサービス遊 森本朋高氏より、身体を動かす大切さ、工夫を学びました。

〈第1部〉では、児童デイサービス遊 児童発達支援管理責任者兼管理者 森本朋高氏より、「障がい児のスポーツと運動」をテーマにワンポイントレッスンをいただき、身体を動かすことによる多くの効果を学び、全員(24団体35名)で身体を動かすゲームをし、広い場所がなくても身体を動かすことができることを体感しました。

〈第2部〉の連絡会では、①事例検討会は、連絡会付属の別組織にて会議を持ち、解決を図るようにつとめ、会議の内容を連絡会で報告すること、②リーフレットづくりは、まず支援者向けのものを実行委員会(プロジェクトチーム)方式で行い、メンバーを自薦・他薦にて募っていくことを確認しました。また、③利用者のトイレトレーニングについては、各事業所より取り組み・成功事例の紹介とともに、様式や参考資料をいただき、よりよい支援につなげていくため方法を学びました。

【 参加者からの主な意見 】

- ・ 障がい児同士(利用者同士)の障がい理解をどのように支援するか。
- ・ 利用者である小学校1年生の女の子がつばを飲み込むことができず、台所やハンカチに「ペッ」と出してしまう。お茶と一緒に飲み込むように声かけているが、他にも良い支援の方法はないか。
- ・ 休日(土・日)に重症心身障害児が受け入れ可能な事業所が少なく苦慮している。
- ・ よりよい支援のためには、「教育」・「医療」・「家庭」・「事業所」等の連携が必須であるが、支援の方向性がバラバラとなっていることが多い。このままではいけない。連携の仕組みづくりを考えていきたい。
- ・ 「連携」に対する必要性は、どの団体・事業所等も感じているが、イメージは統一されていない。今後、連絡会で「連携とはなにか？」を話し合っていきたい。

【 次回(第4回)の連絡会 】 ☆ 2月17日(火)に開催します ☆ 毎月第3火曜日 に開催 ☆

- ・ 〈第1部〉 ワンポイントレッスン テーマ 「ドイツゲーム こどもたちの楽しみ方」
- ・ 〈第2部〉 前回の意見のふりかえり ・ 意見交換 テーマ 「教育・医療・家庭・事業所の『連携』」